

門司港地区は地元市民や企業等を母体とする「門司港レトロ倶楽部」などの市民活動等に支えられ、今では一大観光スポットとして成長きた。観光客が増えているとは言え、多くが短時間滞在型であり、特定の地区への集中など旧市街を含めた周辺への波及効果が乏しいと言った問題も指摘されていた。また一方で人口減少傾向も続き、古い倉庫や事務所、町家などの歴史的な建物も何棟か解体されるなどの課題も少なくない。

本調査は、これまでの様々な事業の積み重ねを評価しつつ、歴史的な遺産の活用を含め、門司港地区の街づくりのあり方を検討し、まちづくり交付金の活用も含め、包括的な対策を施すことを目的としたものである。なお、同時並行して都市再生モデル調査—歴史的遺産を活用した門司港地区都市再生調査（企画局・港湾局）、西海岸地区港湾用地等の活用方策検討調査（港湾局）が進められた。これらとの調整を図りつつ、今後の街づくりの指針となる総合計画としての位置づけにある。



風情のあるまちなか界隈



老松町・東本町1丁目界隈



地形の起伏のある界隈



清滝地区



門司港周辺地区全体計画図

経緯 門司港地区まちづくり総合支援基本計画 '04.1～3（北九州市）

担当：中野、岩村、田邊、松尾、協力：萩原総合計画事務所（萩原貢）